

〈(2)-3〉

主体者/ 連携・協力先	塩尻市/ アルピコタクシー（株）、大新東バス（株）
取り組み名称	地域振興バスのロケーションシステム
取り組みポイント	□ (1) 地域交通の取り組み ■ (2) 情報利活用の取り組み ■ (3) 生活基盤への取り組み
取り組み課題	自治体が運営する地域振興バスの位置を表示することで、乗り遅れを防止する

〈取り組みの概要〉



巡回バスにGPSセンサーを搭載し、利用者がスマホアプリを登録することで、簡単に巡回バスの位置を把握することができる。また、旅行者向けに、最寄りの飲食店などの地域情報を表示させることで、地域の地理に詳しくない方でも、わかりやすい表示を行っている。

〈取り組みポイントについての具体的説明〉

市内を巡回する地域振興バス10路線の運行バスにGPSセンサーを搭載、位置情報を蓄積した上で、スマートフォンによる情報の照会が可能となることで、次の課題を解決した。

【課題】

都会ではバスに乗り遅れても、しばらくバス停で次のバスを待つことで乗車が可能だが、地方では、次のバスを1時間以上待つことになり、バスが通過したのか、まだ来ないのかは、大変重要。

【解決】

デマンドでバスの位置が把握できることで、乗り遅れなどの状況を把握できるようになった。

【課題】

収益が見込まれない地方のバスの運用は、運行費用を予算から捻出するのに精一杯で、位置情報のシステム化までは不可能。

【解決】

クラウドとスマートフォンの組み合わせによりシステムを開発したことで、安価に導入することができるモデル化を行った。

【課題】

地方の移動手段は、ほとんどが自動車であるが、移動手段を持つことが難しい高齢者が、病院や買い物のために移動する方法として地域振興バスの需要は高いが、経路が比較的に長いために、遅延やルート変更が頻繁に発生するために利便性が劣っている。

【解決】

デマンドで状況が見えるので、遅延やルート変更など、現在の状況が手軽に把握でき、利便性が向上した。

【課題】

通常システムは、市町村ごとに別々に開発されるために、開発費が高額になっている。

【解決】

全体のシステムをクラウド化でコンパクトに開発、同様な課題を持つ市町村でも使えるようにモデル化し、スマートフォンアプリに登録するだけでどの市町村でも利用可能とすることで、横展開の費用を最小限にした。

【課題】

旅行者が地理に詳しくない場所で、移動、飲食、ショッピングなどの一連の行動をスムーズに行うためには、鳥瞰で情報が取得できるシステムが必要。

【解決】

旅行者向けに、最寄りの飲食店などの地域情報とバス情報を一緒に表示させることで、地域の地理に詳しくない方でも、鳥瞰できるわかりやすい表示を行っている。